

## 2024年9月講座 感想

〈参加者より〉

非常に盛り沢山の内容であったため、「人間クラブ」のこと、実物教材の使い方、新聞や映像資料の提示・活用のしかた等、時間があればひとつひとつ細かな部分をもっと聞きたいと思った。

学習の振り返りを書かせることは、小学校でもよくやっているが、残念ながら形式化している現状がある。発達段階を考慮しながら、学習内容に即してテーマを絞って書かせたり、自由に書かせたりする等、いろいろなやり方で行っていくことが大事であると感じた。そうすれば、中学生になってからも振り返りの内容の精度が上がり、根拠に即して書けるようになっていくと考えたからである。

そして、社会問題に対する自分の考えを表現するときに、矢印を使って表す方法は新たな発想でぜひ取り入れてみたいと思った。2択で選ばせると考えを絞りきれない時に困ること、「どちらともいえない」では考えが曖昧になること等、私自身も経験してきたからである。

石戸谷先生の中学校の実践を聞き、小学校から中学校につながる系統性が見えてきたような気がした。貴重な話をありがとうございました。  
小学校教員 Kさん

石戸谷氏のお名前は以前より知ってはいましたが、直接、実践の話聞くのは初めてであり、新鮮な気持ちで聞くことができました。

中学校での長年の実践の中で実物教材の触れる機会を持つことや映像を通してその場に自分を置いて考える授業実践は子どもたちの学習意欲を掻き立て、深く考える機会を与えていることが報告や資料からうかがえました。そして、何よりも実践の根底には社会科を学ぶ上で大事にすべき視点「平和—人権—環境」のトライアングルが位置づいていることにも共感できました。こうした授業を3年間受けた子どもたちの感想は教師への美辞麗句を並べたものではなく、心底学んでよかったという心情が伺えるものでした。

感想の中で「小学校では暗記のイメージが強かったけど、入ってからはよい意味でなくなった、そして考えることの方が増えたと思う。公民分野に入って、一気に社会科が身近になった・・・」という感想に触れた時、「これが小学校教育での課題」とも感じました。学習指導要領改訂、学校の管理体制の強化等の中で、教科書等に記された内容をただただ教え込むだけの授業、市販テスト使用が大勢を占める中で、そこに示す問いに答えられるような知識を教え込まねばならない授業、体験(触れる、見に行く、食べる等)をしたくても学校の許可を求められる体制の中では、小学校授業が感想のように受け止められざるを得ない現状は否めません。少しでも社会科授業が「これから生活する社会の糧」となるように、そう気づく教師が増えることは大切だと思います。

授業講座に参加される若い教師の方々が、石戸谷氏の実践に触れて「社会科授業のありかた」に大きな変化を持たれることを期待したいです。

当の私自身も「学びは、身近なところにあるんだよ」を課題に日々、授業実践に心がけていますが、石戸谷実践を参考に「小学校社会科は暗記でなかった」と思える授業づくりに精進したいと改めて思いました。本日は有難うございました。  
小学校教員 Sさん

備中鍬や綿に始まり、様々な「実物」を駆使しながら、生徒の興味を引き出していく石戸谷先生の授業の様子は、とても勉強になりました。ただ「実物」を用意するだけでなく、どのようなタイミングで提示するか、どのような発問を組み合わせるか、その工夫の仕方によって、生徒の興味や関心、理解度などが何倍にも変わっていくということがよく分かりました。自分自身、正直、「実物」の力を軽視していたとこともあるので、毎回の授業で用意することは難しいですが、少しでも子供たちに直接見たり経験したりできる場面を設定できるように工夫したいと思いました。

また、単元の要所で、生徒に自分の立場や考えを持たせ、拘留させるような場面もありました。その中で登場した、矢印を用いた意思表示の方法は、すぐにでも取り入れてみたいと思いました。「教科書に載ってるから覚える」、「テストに出るから扱う」だけでなく、石戸谷先生のように、社会科を自分たちの生活に深く関係していることを実感させられるような授業を目指していきたいと思いました。

小学校教員 Mさん

石戸谷さんとは40年近いお付き合いで、竹早の講師に呼んで下さってからは、11年も「同僚」として過ごしてきました。それでも、今回のように、石戸谷さんの実践の全貌を聞かせていただいたのは初めてでした。備中鍬が竹早にあることも知りませんでした(笑)。ノート点検などで遅くまで残っていると、人間クラブの生徒たちが作った甘味をご相伴することもありました。ご実家の弘前から送られた林檎のコンポート(石戸谷さん手作り)は、教師ラウンジでの人気メニューでした。

石戸谷さんが、丁寧に綿密に授業を組んで人権、平和、そして主権者意識を育てるという実践をされていて、その土台の上で週1回(最初は週3回が、予算の関係?で減らされました)の授業の私は自由奔放に近現代史の授業をおこなえたのだなあ、と改めて思いました。深沢晟雄さん、緒方貞子さん、中村哲さんを「石戸谷先生の授業で知っているよね?」と。沖縄についても『標的の村』を石戸谷さんが観せて下さっていることを前提に、さらに次の授業ができる、といった具合です。60代~70歳にかけて、こういう日々が過ごせたことは、本当に幸せでした。

元中学校教員 Kさん

今日の講座、参加させてくださり、どうもありがとうございました。ランチ一緒せず、申し訳ありませんでした。授業、社会は久しぶりすぎて、あまり発言できませんでしたが、生徒さんたちがよく考えている様子、将来の夢も堂々と発表できていたのが素敵だと思いました。石戸谷先生の情熱、「これは伝えたい」との思いがよく分かりました。実物は私もよく使っていましたが、そこから考えを深めさせるには、石戸谷先生くらい綿密に、そして継続してやっけないと…と今更ながら感じ入りました。異動でキャリアがぶつ切りになる都立校教員とはいえ、同じくらいの情熱、持ち続けていきたいと思っています。また学ばせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

特別支援学校教員 Oさん

私が社会科の授業が好きなのは、歴史の中に出てくる道具であったり、地理の地形や各地の特産物であったりと自分が見たことのないものが見れるのが好きなところでした。石戸谷先生の授業には、たくさんの実物教材が登場し触れることができることと、発問によってさらにその時の時代や「そうなんだ」と考えさせられる授業が想像できるものでした。本講座では、生徒への働きかけなど、石戸谷先生の授業づくりについて知る機会となりました。生徒の身近な生活に引き付けて自分事として考えさせると今までも学んできて、試行錯誤してきましたが、今回その意味が少し分かってきたように思います。今回学んだことを生かしていきたいと考えています。ありがとうございました。

特別支援学校教員 Sさん

本日はお誘いいただきありがとうございました。実物教材を持ってきて子どもの興味を引くだけでなく、産業革命についての理解を深めることができることが分かりました。また、実際に社会問題になっていることを授業で取り上げ、それに対する自分の意見を書かせて、意見の位置づけをさせるなど、主権者意識を持ってもらいたいという思いが伝わってきました。私も教員になって授業をしていくようになったとき、参考にさせていただきたいと思います。

学生 Eさん

今回の実践報告は、非常に興味深く聞けました。また、学ぶことが多い報告内容でした。

他国・他者の立場や、市民の視点から、問いを立てて、ふり返りなど行う…その積み重ねの中で、生徒一人ひとり、主権者としての意識、人権の大切さを知ること、つなげていったことと思います。

今の多くの教育現場は、生徒の同質化、バリアフリー化が進んでおり、他者を知ることや、壁や障害に正対する機会が少ないまま、偏差値の高い大学の行くためだけの勉強を…と感じています。一方で、主権者意識というのは、他者理解や、困難を乗り越えていく過程で、より一層培われていくものだと思います。

そのような中で、今回の実践報告は、現場の現状と照らし合わせても、子どもたちに主権者意識や他者理解を促すための、良い学びの場になると感じました。

また、他の機会でも学ぶことが出来ればと思います。よろしくおねがいします。

高校教員 Tさん

#### 〈講師より〉

この講座でお話しするのは3度目。今回は自分の社会科教師人生の到達点をお話しさせていただきました。たどり着いたのは「主権者意識を育てる」という目標。何も目新しいことではありませんが、中学校3分野で積み重ねてこそ「自分ごと」として政治や社会の課題を考えることができるようになって感じています。地理で地域の課題を住民の立場で考える、歴史でその時代の課題を農民や労働者の立場で考える、そして公民で現実に行っている人権や政治の課題に向き合い、自分の生き方を考える。そうした積み重ねで主権者としての自が育つと考えています。

自分ごととして関心を持たせるカギは「実物」や「映像」だと考えており、その一部を紹介させていただきました。また、取り上げた課題に対して「自分はどう思う?」「どうしたらいいと思う?」と投げかけ、意見形成から意見交流へとつなげ、自分とちがった考えを知り、視野を広げながら自分の考えを練り上げていく。そうした取り組みの面白さと重要性をお話したのですが、その取り組みに応えてくれたのは生徒たちであり、自分は多くの生徒に育てられてここまでやってこれたと感じています。

今回の講座では、「学習の振り返り」での生徒の記述紹介が中心で、その前提となる授業の紹介が不十分でしたので、議論がしにくかったかも知れません。3年間の授業構成をお示ししていますので、関心をもたれた方は遠慮なくお問い合わせください。

「授業で何に出会わせ、どんな問いかけをしてきたか」…日々振り返りつつ、生徒とともに成長し続けたいと思います。お話しする機会をいただき、ありがとうございました。

#### 〈司会より〉

9月講座では、石戸谷先生を講師として、会場とオンラインを併用して、これまでの実践を報告していただきました。今回は、「どんな問いの積み重ねで、中学生の主権者意識を育てるか」というテーマで、話していただきました。

実物教材が生み出す問い、映像の持つリアリティと問い、これらの具体的な事物を通して、自分ごととして考えることを積み重ねていく石戸谷先生の授業実践を実演も含めて体験的にまなぶことができた社会科の学ぶことの面白さがつまった講座でした。

今回も会場とオンラインを含めて24名と多くの方にご参加いただきありがとうございました。様々な学校種の方と学生の方と講座の内容について意見や感想等を通して交流できたことは非常に貴重に時間となりました。

お忙しい中、参加してくださった方々、そして何より、何か月にもわたる準備、すばらしい報告をしてくださった石戸谷先生、本当にありがとうございました。次回、11月講座もよろしくお願いいたします。